

第2回（仮称）ねりま区民大学のあり方懇談会会議録

日時 平成23年8月3日（水） 18:30～20:35
場所 総合教育センター 講座室（4）（5）
出席者 委員 19名
（事務局） 生涯学習部長、生涯学習課長、生涯学習担当係長、
同係職員1名、同課庶務係職員1名
（総合教育センター） 所長、管理係長

配布資料

- （1）総合教育センターの施設概要等について ……資料1
- （2）（仮称）ねりま区民大学のイメージ図 ……資料2
- （3）第1回懇談会で出された課題別意見一覧 ……資料3
- （4）「中学生のためのニュース番組制作講座」実施概要 ……資料4
- （5）今後の懇談会の検討スケジュール ……資料5

参考資料

- （1）みんなの生涯学習No.104 ……参考資料（1）
- （2）職業観・勤労観を育むプログラムの枠組み（例） ……参考資料（2）
- （3）キャリア教育アワードエントリー集（企業の社会貢献活動事例）
……参考資料（3）
- （4）キッサニアの取り組み ……参考資料（4）
- （5）区内3大学連携講座事例 ……参考資料（5）
- （6）生涯学習支援プログラム事例
 - 生涯学習サポーター養成（中央区） ……参考資料（6）-
 - なかの生涯学習大学（中野区） ……参考資料（6）-
 - すぎなみ大人塾（杉並区） ……参考資料（6）-
 - 生涯学習支援実践講座（社会通信教育協会） ……参考資料（6）-
- （7）平成23年度練馬区民意識意向調査（抜粋） ……参考資料（7）

【座長】

前回出席できなかった委員の方の自己紹介をお願いいたします。

【各委員】

（自己紹介）

【座長】

第1回では事務局からこの懇談会において議論すべき基本的な考え方、とりわけ区民大学の考え方の枠組みが提示されました。その枠組みの中で今後議論していくこととなります。また、他区の区民大学の講座もご紹介しました。さらに練馬区の人材育成活用事業の取り組み状況等

もお伝えし、委員みなさま方の区民大学のイメージをお聞きしました。多くの意見をお伺いしましたが、それは逐次まとめ、反映していくこととなります。ここで意見が割れましたら、その部分に関しては両面併記かどちらかにするということになると思いますけども、当面はご意見をお伺いして進めさせていただくことになると思います。

本日からねりま区民大学のあり方についての具体的なテーマ設定をもとに、議論を進めていきます。その前に次第1にあります施設概要および施設見学を最初に行います。ここがひとつの拠点として動いていくことの具体的なイメージ作りをしていくこととなります。事務局から説明をお願いします。

1. 施設概要および施設見学

【事務局】

今日は総合教育センターの管理者であります所長ならびに管理係長がご案内しますので紹介させていただきます。

（所長挨拶）

（管理係長挨拶）

（事務局より、資料1に沿って説明）

（施設見学 40分程度）

【座長】

特に、このことについてはお聞きしたいというところがあればおっしゃってください。

ちなみに、たくさんの資料を3階で見たりしましたが、あれは、部屋の大きさを見ていただくということですので、何かご質問があるようでしたら、おっしゃってください。

【事務局】

最初に音楽室をご覧いただきましたけれども、既存のジュニアオーケストラ事業は、ご案内がありましたとおり、毎週土曜日という形で練習しております。

区民大学になった暁にも、ジュニアオーケストラがここで活動する予定になっておりますので、土曜日のその時間について、区民大学は音楽室を使えないという状況が生まれていることは、ご承知おきいただきたいと思います。

【座長】

そういう意味では、青少年の生涯学習の場としての拠点はとらないとする方向になろうと思います。地下も、今まで使っているグループがありますし、該当するものはありませんので、その部分は、いわゆる所管の一つとして使っていただく。

【事務局】

あと、地下の陶芸室についても、なかなか区民大学で使えない状況だろうと思います。

【座長】

一応、方向性を確定しといた方がいいと思います。

もう一度、事務局で整理して説明してください。

【事務局】

わかりました。

生涯学習事業ということで、現在行われている教育センターの事業があります。

まず、一つがジュニアオーケストラで、4階の音楽室を使っている。これについては、引き続き、区民大学がこちらにまいりましても、活動を続けますので、土曜日の時間帯は使えないことになります。

それから、陶芸室については、既存の5団体が、年間すべて押さえてしまっている状況がございますので、その中で調整して、区民大学で使うというのは、なかなか難しい面があります。ただ、全く使えないということはないかもしれませんが、調整がかなり必要です。

それから、資料室とか、いろいろな特別ルームがありましたけれども、そういった資料については、すべて移転の際に移動しますので、空の状態、それをどう使うかという点でご検討いただきたいと思います。

詳しい施設設備については、第4回に皆さんにご検討いただくということになります。今回は部屋の大きさ等を見ていただくというのが趣旨でございます。

【委員】

「陶芸室」と今言っているものは、工作室も含めて、陶芸室ですか。

【総合教育センター所長】

工作室と陶芸室は別々で貸しております。ただ、陶芸団体が使うときは、大抵、工作室も一緒になっております。ただミシンなどの利用のときには工作室だけの団体もございます。

【委員】

質問の意図は、「陶芸室は残る」と言ったのですけれども、工作室も基本的に残るのでしょうか。

【事務局】

はい。残ると考えています。

【委員】

前にいただいた資料で、改修期間が、結構長くあったのですけれども、見学させていただきまして、何とも微妙な雰囲気になっていまして。

きつい言葉で言うと、本当にここでできるのかなというのが、非常にストレートな言い方で申しわけないですが、帯に短し褌に長しという感じです。

敷地自体は広くていいと思いますけれども、四十何年前の使用目的に合わせてつくった建物を、改修して、何年使うか知りませんが、果たして、10年、20年先に、このまま残しておくかという、そういう根本的な議論というのはなされたのでしょうか。非常に、抜本的なところが不安なのと、改修予定というのは、どの程度の予算で改修をやられる予定なのかという

ことを教えていただきたいと思います。

【座長】

その議論は、こちらがプログラムを提案して、使い方を議論したときに導き出されることだと思います。

あと、あるものをどう工夫して使うかという議論も一つ必要なもので、かなり課題は多いかと思いますが、とりあえず、プログラムとか、やり方を考えて、そして整理してみる。どうしても無理なときは、こうだという議論が出てくると思います。

あと、バリアのことにつきましては、追い追い、使い方ということで出てくるかと思っています。

ちなみに、例えばパワーアップカレッジは40名が一つの定員になりますから、40人で動いていくというところになると、具体的にどこなのかなということもありますし、そこら辺は、先にプログラムの議論として検討していただくことがいいかと思っています。

そうしませんと、抜本的な議論になると、大体、何をつくって、どう入ってくるのだと、なかなか進みにくいので、そこにまた立ち戻ったとしても、プログラムを先行させることで考えられないかと思っています。いかがでしょうか。

【委員】

でも、今のことは多少大事だと思います。私も、ここで大分事業をやらせていただいて、とても使い勝手のいい工作室だとかありますよね。

けども、そのまま使うことを前提なのか、やり方によって改修するのか、どの程度のことまではできるんだよということがなければ、盛りだくさんにしてもだめでしょうし、その辺はどうなるのでしょうか。

【事務局】

施設整備につきましては、座長がおっしゃいますように、プログラム等を検討した後の10月にその辺の話は詰めていきたいと事務局では考えています。

改築等については、確かに耐用年数もございまして、向こう10年程度は使うということになります。その後については改修等の計画も含めて、また行政の方で検討していくことになると思います。当面はこの状態で使用することが前提となります。

それから、プログラムの中身によっては、ほかの施設等とネットワークを組んで、サテライト等も含めて検討していくということも出てきます。それについては追い追いまた別のテーマの中でご検討いただくことになろうと思います。

【座長】

いかがでしょうか。

【委員】

一般的な意味で、練馬区の公共施設はどのぐらいのサイクルで建て替えをしているのですか。

【事務局】

鉄筋コンクリート建てにつきましては耐用60年と言われております。昭和42年の建物ですので、あと向こう15年ぐらいと考えております。

【座長】

あくまで、パワーアップでずっと関わっている身としては、拠点がほしいというのは、つまり、これのところですね。いつも場所が変わりながら、プログラムでやっていますから。そろそろ同窓会もできてきたし、いろんな形で、どこか拠点がほしいということは事実であって、そういう意味ではチャンスかなということはあるわけです。

ただ、ほかの科目で、これは課題であるというのなら、その課題も考えていかなければいけないし、あの部屋を、どうゼミで使うのか、同窓会の部屋にするのか、いろいろなことも含めて、議論を一度してみませんか。その中で、展開していくことが必要かと思えます。

よろしいでしょうか。そして、事務局の方で資料をもう一度確認してください。

【事務局】

(資料の確認)

【座長】

基本的に今日はこの資料で議論を進めます。ご確認ください。その中で特に資料2、資料3を確認してから進めたいと思います。

【事務局】

(資料2、資料3に沿って説明)

【座長】

議論が、かなり広範なものになりますので、一つ一つ確定しながら相互の調整を図っていくことになるだろうと。

そして、ご意見が出されたものに関しましては最後まで残すわけではなくて、皆様がチェックしやすいように、自分が述べたことはこれでいいのかとか、自分がこう言ったけれども、そうではないということがあれば調整していただく。しかし、できるだけここで反映して、そして、最後に皆さんと議論していくというようにしたいと思っておりますので、よろしいでしょうか。

ですから、それぞれ言ったことを当てはめて、それから議論していく中で確認していただくというようにしていただきたいと思います。

それともう一つ、「地域づくり、まちづくり」と目的に出てきますので、完全に割り切れない、ここで、個人でやりたいこともあるが、地域人材を養成していきたいとか、まちづくりに協力していくこともあるだろうし、それとともに各大学と協働しながら、そこで住民が居場所をつくっていく。そういうことも必要だろうと思えますし、キャリアをつくって、キャリアパスといいますか、青少年がここでキャリアを積んで、そこでまた社会で活躍するような仕組みも、生涯学習支援として位置づけている。

そういうことが、次第2の区民大学に期待する具体的な機能・カリキュラムの生涯学習支

援の(1)(2)(3)ということになるわけです。

今日は、委員の中でご説明いただくような内容もございますから、特に青少年の自立支援ということも含めまして、具体的に見ながら、皆さんと検討していきたいと思います。よろしいでしょうか。

2 区民大学に期待する具体的な機能・カリキュラム (生涯学習支援)

(1) 青少年の自立支援・就職支援への対応について

【座長】

青少年自立支援、就労・就職支援の対応について、考えていきたいと思います。現在、練馬区が取り組んでいる具体的事例は、資料4をご覧くださいと思います。資料4で出されておりますので、その事例を踏まえて考えていきたいと思います。

委員が中心となって取り組んでおられるところです。

【委員】

(資料4に沿って説明)

(中学生が制作したニュース番組のDVD視聴)

【座長】

委員が幾つかキータムをおっしゃいましたね。もう一度、確認させていただけますか。

【委員】

一つは、やはり「リテラシー」ということです。メディアリテラシー、メディアを読み解く力を身につける。

メディアといいましても、テレビ、ラジオ、最近では、インターネットということを含めてのリテラシーを、まず身につけるとのこと。

それから、今度は、「地域に目を向ける」。地域への関心です。

中学生は、どうしても中学校の中ということがありますが、地域に存在している学校です。地域に住んでいるわけです。ですから、地域に対して目を向ける。これも、最初は興味だと思いのです。そのうちに、だんだん地域社会で起こっている問題というところに目を向ける子が出てくると思います。そういうことも含めて、地域に目を向けるということが非常に大事じゃないか。

そして、今度は、知識ばかりを身につけるんじゃなくて、実際に自分の目で、つまり、取材です。目でとり、聞くということに意味がある。最終的には、それをまとめるということです。

その辺が、一つのキーワード、キーポイントになってくるんじゃないか。物づくりということからいうと、つくる喜び、あるいは、つくる尊さということを、彼らはきっと体験しているんじゃないかなと、私は思っています。

【座長】

あと、今日お配りした参考資料もご参考になるかと思えます。

いかがでしょうか。子どもたちの支援というところで、何が一番優先されるか。特に、子ども

もたち自身が地域をつくっていくことに関心を持つべきだというポリシーのもとに、委員や日本大学が動いている。これはとても大事なことだと思います。彼らの力を育てる。生きる力でもありますし。

【委員】

初日は大人しい子たちが、だんだん目の色が変わってきます。それで、全く学校の違う子たちが、最初はよそよそしいわけですが、企画が決まって、取材に行くと、どんどん自分たちで意見を出し合っています。その辺のところ、わずか一月近くの間に変わっていきます。

そして、最後は、でき上がったらしいという喜びに変わってきますので、こういったことが大事かなと感じます。

【座長】

いかがでしょうか。

【委員】

参加者は、21年度は応募45人、実際19人となっていますが、選考があるんですか。

【委員】

抽選です。今年は期間が長かったり、地震の関係もありまして、日程が大分狂ったので、応募が少なかったなど。

【委員】

委員のおもしろい授業が、私が学生のときにあれば、私はもっと立派な人間になったんじゃないかなと思います。

そもそも論ですけれども、青少年の自立支援、就職支援、その一環として、今のお話を聞いていたのですけれども、私は、自分の学生時代にクラブ活動に明け暮れていて、情報量も今みたいにインターネットではなくて、図書館に行って調べなきゃいけないという時代の流れも、今と違っていたと思うのです。

その中で、この青少年の自立支援というのを項目に上げているというのは、言い方が変ですけれども、要するに、今の中学生・高校生、若い人たちは、わざわざこのテーマを入れるということは、元気がないのかなと私は感じちゃったのですけれども。要するに、実態がわからないのです、私自身。自分の学生時代しか知らないですから。

【座長】

お聞きしてみましよう。

【委員】

総体的に言ったら元気がないのかもしれない。場がないというのか、見つけられないというのか、与えるものを待っている子が多いということは事実だと思いますね。ですから、中学校、高校までの教育もそうでした、大学生自身も大人しくなっています。つまり、我々が課題

を出すのを待っている。むしろ自分から見つける、ということの特に芸術学部などは常々発信しているのです。

ですから、そういう意味でも、そういう場を提供したいという思いがありまして、こちらから課題を、「これをやりなさい」じゃなくて、最初からゼロの状態から、「君たちが練馬区から何かを見つけてきなさい」という方針でやったということで、大人しいというところがあると、私は思います。

【委員】

そうすると、区民大学ということに当てはめて考えると、例えば、まちづくり、地域づくりですから、人づくりのつながりがあるのですけれども、学生、若い方たちに活力を与えるようなカリキュラム、もしくは、そういう人たちを育成するためのカリキュラムを考えましょうという。

【委員】

発展していくと思いますし、そこだけじゃなくて、練馬区を知るという方向にも行けると思いうのです。情報の収集みたいなのところも含めて、もっと練馬区を知らなきゃだめだし、練馬区というものをどういうふうに活性化していかなきゃならないかというための人材を、僕は育てることにもつながってくるんじゃないかと思います。

【座長】

ということで、今回ひとつ討議問題が入ってくる。

【委員】

お尋ねします。これは練馬区在住中学生とありますよね。練馬区内だけの中学ではなく、他区へ行っている中学生も含めてですか。

【委員】

練馬区在住、あるいは在学です。

【委員】

例えば、在住であっても、練馬区外の中学校へ通学している子は入っていないのですか。

【委員】

今回は、いなかったです。

【委員】

そういう方も対象ですか。

【委員】

もちろん、構いません。

【事務局】

今年はありませんでしたけれども、去年は、私学に行っている子たちが何人が参加しました。

【委員】

そういう子は、いろいろなコンビネーションができて、いろいろなところの情報が入って、子どもたちにもいいかなと感じました。

【委員】

そうですね。

【委員】

わかりました。ありがとうございます。

【座長】

他にありますか。

【委員】

委員からご説明いただいたのですけれども、私は田舎で育ったので、ごく当たり前のことなのです。私にとって新しいことは、「情報リテラシー」という情報理解力という言葉です。田舎で育てて何にもなかったから、すべて体験というか、自分たちで工夫してつくるしかなかった。目で見て、行動して、いたずらして、怒られる。そういう社会体験があった。そういうときの子どもは、みんな元気です。都会の子どもは、すべて満たされていて、親が与えて、勉強に行っていて、仕事はしなくていい。だから、能動、アクティブに行動する場所を、親が社会が、奪っちゃっているような気がします。

【座長】

あと、いかがでしょうか。

質問する方、意見を言う方、手を挙げてください。

【委員】

この話題じゃなくても大丈夫というか、今の映像に関しての話題に限定されるのですか。

【座長】

いえ、青少年の支援です。では、各委員どうぞ。

【委員】

青少年支援からは外れちゃうのですが、生涯学習支援をお話しできるのは今日だけですか。

【事務局】

今日がメインですが、議論し尽くされない部分については、また次回ということで。

【委員】

区民大学の基本的な考え方というのを前回お示しいただきまして、非常にいいことが書かれていまして、なるほどなど。人材の活用と育成、それから高齢化してきて、区民の学習ニーズが高まっているということで、生涯学習にしましょうと。

非常に、理想的なことが書いてあるのですが、その中で、生涯学習は区民ニーズが高まっているので、区民ニーズに反映したカリキュラムを組むことが、生涯学習については非常に重要じゃないかと思っているのですけれども。

区民ニーズをどのようにして把握されていらっしゃるのか、これが乖離しちゃうと、大学をつくったけれども余り人が集まらないということになっちゃうので。区民ニーズも、例えば退職した人もいれば、退職間近な方もいれば、子育ての方もいれば、虐待で困られている方もいれば、いろいろなニーズがあると思うので、その辺を幅広く拾っていかないと、「区民大学」と称するに値しないんじゃないかなと思うので。

委員が言う三大学の連携というのは、日大藝術学部がこの区にあることは、区の財産ですから、そういったのを区民が活用できることで、これは非常にすばらしくて、多分ほかの大学も、そういう社会資源を持たれているので、多分、本当に区民ニーズだと思うのですけれども。区民ニーズは、他にどういうことがあるのか。7月に調査をやると書いてありますけれども。

【事務局】

その件につきましては、今回、資料をお送りさせていただきました。

参考資料7で、区民意識意向調査の中で、地域に関して、地域課題について調査をさせていただきました。それとともに、区民大学に対する期待などについても調査していくということでございます。

そのほかに、もし必要であれば、例えば、学校の方に青少年のことについて調査するということも可能でございます。それについてはご意見いただければと思います。

それから、今回のテーマにつきましては、地域を知るとともにキャリア教育ということで、子どもたちにどういった仕事があるか、どういう職業について知ってもらうかということも今回議論していただきたいテーマでございます。よろしくお願いいたします。

【座長】

ですから、基本的にこの委員構成から見て、委員から発言して、補足するやり方もあります。それから、この懇談会の前に庁内関係各課の委員を構成して基本的な考え方をつくっていますから、その人たちが捉えているニーズが反映されてくるということになります。教育関係であれば、その後ろに教育関係の責任者がいるし、また児童福祉のことであれば子ども家庭支援センターなどです。

それぞれのところを出しながら、折り合いをつけていく。そういう懇談会です。

【委員】

商工会議所では、練馬工業高校の2年生の秋の時期に、うちの役員さんの対象企業に手を挙げていただいて、インターンシップというのを実施しております。職業体験の場ですが、授業の必須の単位なので誰でも絶対に受けなきゃならないのです。特筆すべきは、インターンシッ

プで行った就職希望者の大体四、五分の一が、実際その会社に就職をしているということです。

だから、高校、生徒さん、父兄の方からも、非常に評価されているし、高校生も、自身で勉強しているときには、職業意識とかまだ漫然としか考えていなくて、例えば、工業高校だと自動車の整備士になりたいとって、そういう勉強をされている方もいるのですが、その企業に行って聞いたりすると、「やっぱりこの道へ進もう」とか、「やっぱりこの道は、僕には合っていない」とか、わかるということです。断念するといっても、それはそれでいいと思うのです。実際に、会社に入ってから断念すると、それはお互いにとって不幸ですから、体験したときに断念するなら、それもまた本人にとっては将来の糧になると思います。

だから、何が言いたいかというと、商工会議所では、地域の事業所と高校が、一体となって、高校生を育てていこう、立派な社会人にしようという意識で、先ほど日大芸術学部さんもあったのですが、商店街さんでもそういう思いはあると思うし、各団体とか、いろいろなところが、そういう思いとか取り組みをしていると思うのです。

そういう取り組みとか思いを、区民大学という形でうまくコーディネートすることができれば、退職者の人を呼んできたりとかすれば、その方のノウハウを、継いでいくことができると思うし、非常におもしろいかなと思うのです。

【委員】

児童福祉的な立場というか、キャリア教育というか、職業体験というところとは、そこにたどり着く前という感じになってしまうと思うのですが、この前の速報で、虐待は5万件という中で見ていると、暴力的な虐待だけではなく、育児放棄とか、手をかけられていない子どもというのが非常に多いという印象があります。中高生の問題でいうと、そもそも学習についていけないとか、将来に希望を持つという段階で、職業を選ぶというよりも、進学といった意味で基礎的な学習ができていないという子が非常に多いのではということがあります。各地で、学習甲子園とか、寺子屋的なものだとか、例えば地域のボランティアの方とか大学生とか、そういった子たちと交わりながら学んでいくというような、プログラムをやっているところもあります。こういった拠点があると、地域の方と子どもたちを支えるというのも、一つのキャリアというか支えになるのかなと少し感じました。

【座長】

そういう意味では、いろいろなところがかかわっていますので、そのかわり中で、どちらの特徴を出すかという、まさに、ここで児童福祉施設がやることをやるわけではない。ですから、この中は、教育が単に学校でとどまらずに、座学ではなく、地域があるということ、それを一つのキーポイントに持ってくるんじゃないか。そこを今、地域がなさっていると思います。

【委員】

聞いていて、青少年の自立支援はしなきゃいけない。だけど、傷が痛いところに薬を塗っているだけのような気がしていて、痛いところは「耳たぶをこうやってもむと、ほら楽になる」というような東洋医学的に、もっと青少年の自立支援を、もちろん大学は、そういうのを直に

やるところですけれども、こういう区民大学というのは、20代で素敵に働いている、あこがれの先輩がいるとか、30代でバリバリ本気で仕事をしている人と出会う場であるとか、そういうことが必要であって、迷っている人たちに、学校でいっぱい大人に勉強を教わっているのに、またここに来て、みんなが「子どものために」と思って言いながら子どものためにやっていて、「子どもが来ない」と言っていて、みんなですべてをため合うようになるのは、うまくないだろうな。

それよりも、20代、30代、40代が背中を見せるように、おもしろいことをやっている。それから、40、50、60と、そこに生涯学習のつながりというか、学んでいく楽しさとか、自分たちが持っているハードルを越えていく楽しさというのを見せることをやるのが、「こっちのひじが曲がらないよ」というのが、こっちをもむと曲がるようになるみたいな動きかなと思うのです。

だから、今聞いていると、本当に対処的にやっていると、多分に10年もたない。時代が変わると。

【座長】

そのトピックも含めて、そこら辺の具体的な案を、こっちでやると、こっちが楽だとか期待して、今後ますます使いますので、ぜひそれをお願いしたいと思います。

今の位置と、それから、どうそれを具体化するか、これが一つ課題になると思います。

【委員】

よろしいですか。

【座長】

いいですか。最初、このメンバーで議論するといったときに、そこで進めないと、時間のコントロールが難しいのです。

【委員】

練馬区では文化国際課、文化振興協会、教育指導課等で、三大学との事業がかなり行われていますよね。それと区民大学はどうかかわるのか。

子ども等に教えるためのいわゆる大学ではなく、生涯学習としての区民大学を望んでいます。決して子どもを対象に教育するための指導者を集めるのではなく、生涯を通して年代にあった学習をし、生涯豊かな人生を送ることのできる指導者を養成する区民大学にしたいと思います。委員もおっしゃっているように、地域の高校生を、地域の職場で受け入れて、職業体験させるのもあるし、三大学でやっている事業もあるし、我々が生涯学習としてやっている仕事もある。それを、どういうふうにごくここへ持ってくるのが今問われているところかと、私は思っているのです。

【座長】

ありがとうございます。

(2) 地域活動につながる生涯学習支援講座のあり方について

【座長】

では、次の課題にいきたいと思います。(2) 地域活動につながる生涯学習支援講座のあり方。参考資料で、区内の三大学連携事例等が出ております。前回、他区の生涯学習支援、プログラム事例もお示ししたところでありました。

あと、委員から追加のご議論が出ましたので、説明していただけますか。

【委員】

追加資料で、二つ事例をご紹介させていただきます。地域活動につながる生涯学習の支援講座のあり方の事例として、追加資料2を見ていただいてもよろしいでしょうか。

「子どもたちが参加し、体験する開かれた場の創出」、青山学院大学のワークショップデザイナーのものです。私がこの事例を持ってきた理由は、前回の懇談会の中で、知識というものを得たとしても、それを活用する場がない、出口がないというのが、問題ではないかという話が出ましたので、その出口をどうつくっていくかという方法の一つとして、このワークショップデザイナーというのがあります。これは、ワークショップを自分たちで企画して、運営できるようにするためのプログラムで、青山学院がやっているのです。

具体的には、120時間のプログラムを組んでいます。それを約2か月間で学んでワークショップを自分で開けるようにしていくというプログラムです。そういったものを区民大学の中で入れていくことによって、自ら活躍する場を、自分たちでつくることのできるのではないか、という事例として紹介しました。

【座長】

ありがとうございます。

この事例もありますし、特に生涯学習の支援とかありますから、かなり広い側面になっています。このイメージだと、例えばパワーアップカレッジも、当然これに属する。そのキーポイント、キータームはそれぞれ持っている賜物に気がつくということです。学習しながら、自分って、こんなにできるんだとか、焼き物が得意だという方も出てきて、仲間をつくってやったりとか、2年間でいろいろ回って、活動を知って、そして自分の立ち位置がわかってくる。ですから、地域を知らないで入ってくる方が多いです。

だから、定年退職なさった間際の方は、自分がどう地域でやっていくのか全くわからない。そういう中で、その人に考える場を与えて考える場を地域に持ってくる。それが、パワーアップカレッジの特徴です。それを2年間かけて、それぞれがそれぞれの道を歩んでいく。スタートを切るというところであります。

委員、今の構成はどうですか。

【委員】

女性4に、男性1ぐらいの割合です。平日ですので、男性は退職された方です。

退職された方は、座長がおっしゃったように、地域とのつながりがほとんどなくて、急に、ぼんと時間ができたので何かやろうと、非常に模索されている方が多い。

女性は、主婦の方、子育てが終わって地域貢献したいという方の二つに分かれると思います。

【座長】

そういうニーズがあって、かなりの方がいらっしゃるということです。ですから、青少年でも、働く場所、特に20代でリストラで、いろんな形で働く場を迷っている人たちにに対する支援だって考えられるかもしれない。地域福祉の関係に進む道もあるということです。

いかがでしょうか。老人クラブの会員の方は何を求めているのでしょうか。

【委員】

私は、青少年の指導員を何十年かやっていたのですが、素晴らしいリーダーに育ち上がっても、青年になるとボランティアとかに興味がなくなってしまう、がっかりするときがあります。これをうまく育て上げられるような、そのまま伸ばすようなものが区民大学にできたら、素晴らしいと思います。

あと、何年か前に、親戚の中学生の不登校子どもがこちらでお世話になったのですが、自分だけじゃなくて、友達2人と一緒に3人で頑張って、高校にぴしっと入ったのです。あれにはびっくりしました。

だから、青少年というのは、青少年の目で見ても、お互いに助け合っていくのが一番いいのかなと思って、皆さんのお話を伺っていました。

【座長】

仲間づくりということが大事だということですね。確かにそうですね。仲間づくりというのは、ずっと続きますからね。

アニメで、30代、40代、50代の方が、この活動に参加するという可能性はあるのでしょうか。

【委員】

意外と簡単にと言ったら変ですけども、短いものを意外と簡単につくれる。だから、そういう講座は、ぜひつくれるといいなと。そうすると、経験している人、編集さんとか、アニメの絵をかく人とか、個々の人を集めると、意外と簡単につくれる。そういうのはぜひ、区民大学でやれたらなと。

【座長】

地域活動とアニメがつながることはあるのですか。

昔は、紙芝居でいろいろ回ってやって、みんなが集まって、わいわい見て、コミュニティをつくっていた時代がありましたけれども。

【委員】

この場合はどうしても、アニメそのものに関心が強い。アニメでつくったものをどう活用するかになると年齢は関係なくなると思うのです。つくる方が非常に簡単。

【委員】

そうすると、例えば練馬区の古い写真とかをアニメの背景画にして、そこに自分の分身が入るようなアニメをつくれれば、地域の理解はすごく進むと思うのです。そんなふうに時代を飛ば

る、今あるものではないものに入れるのが、アニメのいいところなので。

今あるものの地域にはなくて、今ないとか、未来の練馬を考えた背景という話でやると、地域のことも。だから畑がだんだんなくなっていったら、どうなるのだからって想像していくと、そんなアニメを、恐々と背景を描いて、そこに自分の分身を入れるというのも、できるんじゃないでしょうか。

【座長】

そこら辺は、小学生のやる気は出ますでしょうか。

【委員】

多分、興味がある子はいっぱいいると思います。実際に、教科書にパラパラ漫画を描いている子もいますし。

あとは、放課後のひろばに遊びに来ている子は、主には、外で体を動かす遊びをする子の方が多いとは思いますが。ただ、宿題がある子は、宿題を終わらせてから遊ぼうというのがルールですから、机に向かって30分なりという時間を過ごす間とかでも、お絵描きしながら、落書きしながらという子もいます。多分、興味はそそののではないかなと。

今、委員がおっしゃっていたような感じで、自分たちが考えている将来の練馬も含めて、将来の地域というのを含めて、それこそ実写だとなかなか長い時間をかけてつくっていかなくちゃいけないものが、自分たちが想像した中に、それこそ自分の分身が入っていくような感じというと、いい意味で広がっていくんじゃないかと思います。

【座長】

ここで勉強した人が、学校に行ってもいいわけですね。

【委員】

そうですね。

【座長】

わざわざこっちに来ないでいただいて、そっちに行く。そういうようなプログラムをつくっているというわけですね。

【委員】

委員は、日本のトップ・オブ・アニメのコンテンツの神様みたい方で、そういう方が、我々と同じ座に加わっていただいているというのは、本当に、練馬ならではのものです。

大泉の東映アニメーションさんのギャラリーを見ると、まさに、日本のアニメーションの歴史そのものを見ることができるのです。だから、区民大学でアニメを、年配の方ももちろん、かえって年配の方が興味あるかもしれないですけども、これからの次代を担っていく方に練馬のアニメと、アニメの作り方を、今スタッフがいっぱいいらっしゃるの、そういう方にお世話になりながら、若い子、そういう興味のある人が実際につくれば、それは、ねりま区民大学ならではの、練馬ならではのと思うのです。

練馬というと、日本で一番アニメーションが集積しているところだし、世界のアニメのトップを走る会社があるわけですから。それを使わないというか、それをここと切り離すというのは、もったいないと思います。世界のアニメのトップがある場ですから、それは、ぜひ使ってほしいと思います。

【委員】

(2) 地域活動につながる生涯学習の支援のあり方というので、先ほど座長がおっしゃったパワーアップカレッジで、注目しなければいけないのは、「卒業」というところ。この大学がどうあるかじゃなくて、大学は通過点であって、その卒業後をどういうふうにつくるかというところだと思うのです。

そこをつくれないと、区民大学がただ大きくなっていく。多分、練馬区の経済が破綻する方向に向かうと思うのです。みんな、施設をただで使いたいという話になっていくのは、うまくないだろうなと思って。いかにコミュニティビジネスを、先ほどあったアニメーションを緩くやりながら、リーズナブルな価格で、生涯学習みたいなこととコミュニティビジネスをくっつけていくかという格好になるような講座があったらいいなと思います。

(3) 団体サークルと自主活動への支援のあり方

【座長】

(3) 団体サークルと自主活動への支援のあり方について、それは一般団体、卒業生も含む。区民大学学生、サークルへの施設利用などのところの議題に入らせていただきます。

まさに、今おっしゃったように、その後をどうするのか。入口と出口をどうするか。ずっと出口がないまま勉強なさっている方がいても、僕は、それはそれで居場所としていいとは思いますが、ここで自分の老後を送りたいという人にとっては、とてもいいことだから、出口を考えることです。皆さんいかがですか。

【委員】

今、武蔵大学でミツバチを飼っていて、ねりコレの形で、蜂蜜を使っておいしい「江古田」を発信できたらと活動している。教育機関としては、活動に参加している人にミツバチの生態と生物多様性の教育も目指しています。

もう一つは、日藝とも協力させていただいて、日藝の学生さんに、おいしい「江古田」をプロモーションするアイデアをお願いしている。例えば、パッケージをつくるとか、ちょっとしたイベントをするときの看板をつくるとか。そういう形で、地域の人との協力をしていたらどうか。大学に来てもらうんじゃなくて、大学が外に出るみたいな、そういう形の協力を構想しています。

皆さんのお話を聞いていても、一つのイメージは、NHKの番組で「ようこそ先輩」という番組がありますよね。そういう形で、退職した人たちが、お互いに「ようこそ先輩」になって、学びあう。ただ、それが、今度はビジネスにつながるか、地域貢献的な社会活動的なものにつながるか。今、座長のおっしゃっていたように、出口をどれくらいイメージした「ようこそ先輩」的な形になるのか、よく考えていく必要がある。

多分、練馬には人材がいっぱいいて、人材を育成しないといけないではなくて、ネットワー

クをどうつって、それをどう生かしていく方法を、ここで考える。あるいは、それを底上げできるような形がいいのかなという感じがします。

【座長】

ボランティアとか、福祉関係のボランティアも、練馬区はすごく多いし、NPOも多いし、自主活動がかなり進んでいるところです。精神的な障害を持っている方の支援体制もかなり多いです。

例えば、こういう団体、サークル等の自主活動の支援があるとか、こうした方がいいとか、特に仕事抜きに、人間の成長としてお考えになることをおっしゃっていただければと思います。

【委員】

意外とボランティアを希望する、やりたいという方は多いです。私の施設でも、基本的にはお断りしないで全部受け入れるようにしております。

それから、高齢者の方のガイドヘルプ、外を歩くときの車いすの押し方とか、そういう講習をときどき組んだり、あるいは一番ニーズが高いのは、障害のある方が学校を終わってからの居場所がないので、そういうお世話の仕方のときに、例えば、かなり多い自閉症の方の対応の仕方を知っていると知らないでは、随分お互いに違うと思うのです。

そういう基本的なことを知って、学びたいという方が結構いらっちゃって、そういう講座があると、それと、放課後の居場所を合体させると、お互いにうまくいくケースが出るんじゃないかなと思います。本当に希望者は多いというのが実感です。

【座長】

ほかにいかがでしょうか。

【委員】

私は、生涯学習というのを、さっき委員がおっしゃったみたいに、学生だけじゃなくて、死ぬまでの間の学習と広く捉えていました。私が大学に行くのだったら、どういうことを勉強したいかなと、いろいろ思うのですが、どれも地域とかボランティアに結びつかない。

例えば、古典を学びたいとか万葉集をやりたいとか、源氏物語いいなと思って、そういう勉強しても、練馬の何になるかというと、なかなか結びつかないところがあって。そうすると、読書が好きだといったら、その人たちでサークル組んで、そういう人はカルチャーセンターに行けばいいのかという話になると、単なる知識欲、好奇心には応じられないということになるのかと。やっているうちに何か広がっていくのかもしれないとも思ったりもしますが。趣味というか、学びたい、学んで、わからないことがわかって、知らなかったことを知って、そのこと自体がわくわくする体験というのか、それが目的のようなところもあるけれども、それを地域やまちへ結びつけなければいけないというところで、何か難しいなと思います。

【座長】

それは本質的な議論になりますね。その人がわくわくやって元気で自立していただいたら、一番いい生活の質です。あと、働く場。

そうやって、自分で何かをつくってやっていけば、一番いい自立支援だし、居場所があることはとても大きいんです。だから、そう言いつつ、もう少しその力を地域に活用してもらえないかと。

【委員】

委員みたいなお考えの人は、他にもいます。自分が楽しかったので次はサークルでもと声をかけていくと、人が寄ります。それを提供することも、地域活動に還元できることです。あんまり難しく考えなくてもいいのではないのでしょうか。

生涯学習は範囲が広いというのは、拠点で何回か味わったり、福祉をやったりすると、全部つながるんです。だから、ここで学んだことを地域に還元できるということをここでやると、人を育てることになると思っています。そうすると、すごく範囲が広いはずですよ。

ここで、私がさせていただいたのは、引きこもりのお子さんの事業ですけれども、先生にお声がけいただいて、何回かやりますと、真剣に子どもは取り組むのです。学校へは行かないけれども、ここへ来て楽しいことの見線に立ってやると、ついてきます。だから、子どももそうですし、高齢者の方にお教えすると何遍でも続くというのも、地域へ還元しているのだと自分で思っているのです。

【座長】

ありがとうございます。

【委員】

私は、レベル的に、大学というと敷居が高いような感じがしました。いろいろなことを生涯学びたいと常々思っていますが、その前に、まずサークル的に、そこへ行けば楽しいことがある、ということから大学に行けるような、そういう場的なものがあると、横のつながりもできますし、今まで私はこれをやりたかったけれども、こっちの方がもっといいとか。大学というと高いような気がします。

【座長】

予備校にしましょうか。

【委員】

やるんだったら、区民寺子屋ぐらいがいい。

【委員】

そこへ行けば楽しいことがあるんじゃないか、例えば、若い人、子育て中の人たちも、そこへ行くと、いろいろと情報がもらえるとか、楽しい人たちと会えるというような。

区民大学がちょっと専門的なことをやると、「今度、いついつにこういう講座があるよ」みたいなのがあったらいいかなと、漠然と思っていたんです。

【委員】

それはすごくおもしろい。デンマークなどが、高校の後、大学行く前にホイスコーレというものをやっていて、高校生が行ってもいいし、大人が行ってもいいというのが、一番下のところであって、みんなでどこに行ってもいいかわからない。

高校生は、ここに来た後、本当の大学とか自分のものを探していく。でも、仕事が終わった人たちは、ここから区民大学のどこをねらっていくというのがわかっていくというもの。

【委員】

まず、何もわからない状態が多いものですから、そういうのを思っていました。

【座長】

そういう意味では、サークル活動とか、ここでつくれるかどうかという議論もありますね。サークルの場をつくるということもあります。

【委員】

今のは非常に重要なことで、本来、大学というのは、自分が学びたいことがあって、先生を呼んでくるのが大学です。そして、それを地域がお金を出して支えていく。

地域あるいは個人個人の希望そのものが集まって、どの人に来てほしいとって、呼んだらいいのです。「どれに行こうかな」と選ぶんじゃなくて、この人を呼んでほしいと。私たちは、この人を呼んでほしいと言ったら、それを仲介する。

練馬区には随分人材がいて、委員がおっしゃったように、「アニメをやりたい」と言ったら、いろいろなレベルで供給できる。そういうネットワークを私たちがつくって、供給できるようにする。

さらにいろいろな形で、生涯教育から地域貢献あるいは起業まで、出口の方も上手に用意されている、増えてきているという積極的メッセージがあるのがいいのではないのでしょうか。

【座長】

ありがとうございました。

基本的な内容とともに、プログラム内容、もしくは運営の方向について、いろいろ意見が出たと思っています。意見を広げて、その中でどう集約していくか。拡散していかないと限定されたものになってしまいます。それをどう取舍選択するか、プライオリティーということです。皆さまのご意見を大切に取っておいて、何をプログラムにするかということが必要です。よろしくをお願いします。

今後のタイムスケジュールについて、資料5を事務局から説明してください。

【事務局】

(資料5に沿って説明)

【座長】

よろしいですか。

(なし)

【生涯学習部長】

(挨拶)

【座長】

終了いたします。

(終了)